

F 分科会「歴史的な建物とまちなみ」北海道事例発表 質問と回答

(1)豊かな住環境をイメージする大切さとはどういうことか？

特に北海道の地域性はどうか？

> 「自分や家族がどのような住環境で過ごすことが快適であるのかを考える力」= 「すまい力」を持つことが“豊かな住環境”を作り出すことに繋がるのではないかと思います。そのために、自分はどんな時に楽しくて、喜びを感じ、安心できたかを振り返ることも大切です。

北海道の地域性については(3)にて。

(2)4年間参加した先生は同じメンバーだったのでしょうか？

> ほぼ、別のメンバーが参加しています。

住教育セミナーは、毎年開催される「北海道高等学校家庭科研究協議会」の中の分科会の一つとしての取り組みになっているのですが、他にも分科会があり、ローテーションで参加されている印象です。

(3)「北海道の住宅が数年急速に変わった」もう少し詳しく伺いたいと思います。

> 半世紀程前、国が示した断熱の技術が北海道に入ってきた頃は、気候の違いによる結露やすがもりの問題などが多くみられました。それから、産官学一体となった北海道独自の高断熱・高气密工法が普及していきます。屋根の形状も、都市化や高齢化により落雪・排雪の問題を考慮して、勾配屋根からフラットルーフが増えるなど、外観にも変化が見られています。これらの変化の中、暖房・換気の方法・住まい方が変わり、雪との係り方が変わりました。新しい技術に対応して暮らしていくことが精一杯で、ゆとりをもって自分なりの住まい方を模索するということが薄れてしまっているように感じています。

(4)ワークショップで体験した成果。一番先生達を感じたことは何であったか。

> 先生方が、何をどうしてどこから始めてよいか分らず悩んでいる様子が伺えました。まずは、嫌厭せず住まいに興味を持ってもらうことが大切であるという流れで、楽しんで取り組む方法を伝えるようになっていきます。[興味を持つ もっと知りたいと思う 方法を模索しはじめる やってみる]まで行けば、いつの間にか自分の住まい方について考えるようになるのではないのでしょうか。その時に、また私たち建築士に聞いて頂ける場所までいくと良いのですが…。授業に取り入れたいという意見が増えてきていることが、今のところの成果かと思っています。

(5)H20(2008)「あそびの世界からみた家づくり」で子どもの頃育った家で

「心地よかった場所」「嫌だった場所」「困らんの場所」

北海道ではどんなだったのでしょうか？

> 以下、まとめです。

「心地よかった場所」

多数…居間・台所(食事室)・自分の部屋・屋外(遊んだ場所)・ベランダ・縁側

少数…屋根・父母の寝室・廊下・屋根裏部屋・階段・お風呂・親の書斎・屋外

家族が集まっている場所や、あそび場、日当たりの良い場所が多い。また、普段は入ってはいけない場所や、一人でひっそりと遊べる場所などもわくわくした経験としてあがっている。

「嫌だった場所」

多数…トイレ・お風呂・物置(納戸)・ム口(地下室)・階段・廊下・洗面所

日当たりの悪い部屋

少数…姉の部屋・蔵・家全体・石炭庫・自分の部屋

日の当たらない暗い場所、人気のない場所が多くあげられた。また、怒られた時の記憶と重なっている場所もエピソードと共にあげられた。

「困らんの場所」

多数…居間・台所(食事室)・ストーブの周り

少数…お店の中/作業場(自営業)

居間と食卓のある部屋がほとんどである。家族が集まるという場面が、食事の他、暖を取る際= 困る場所というのが地域性が出た結果となった。